

## 1. 教員および授業の概要

### (1) 教員名

佐藤 壮 (Takeshi Sato)

### (2) 担当科目

博士前期課程：北東アジア専門講義 15 (国際関係論)、北東アジア専門講義 20 (アメリカ研究)、北東アジア研究指導 I~IV

### (3) 教員のプロフィール

一橋大学大学院法学研究科修士課程修了 (法学修士)、一橋大学大学院法学研究科博士課程満期退学。

### (4) 所属学会

日本国際政治学会、International Studies Association, American Political Science Association

### (5) 研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ 国際関係理論
- ・ 東アジアの地域安全保障アーキテクチャ構築におけるバイラテラリズムとマルチラテラリズムの相互作用
- ・ 領土紛争における不可分性と正統化戦略
- ・ アメリカのアジア太平洋政策

### (6) 研究指導方針

国際関係論・国際政治学においては理論的な立場や世界観、採用する方法論によっては科学観が大きく異なることを理解した上で、学生自身の選択した研究テーマが、どのように国際関係の本質や変化を解明することに貢献できるのか、という視点を意識しつつ、理論的かつ実証的な分析・考察をおこなうことを目指します。

### (7) 指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

- ・ 東アジアの安全保障に関わるテーマ (同盟理論、大量破壊兵器の拡散と管理、地域主義、アメリカのアジア太平洋政策など)
- ・ 指導に関与した修士論文のトピックには、「日本の文化外交」、「中国の弱勢群体と格差問題」がある。

## 2. 研究業績リスト

### (1) 著書

- ・ 「中国の台頭と日米安全保障体制——パワー・利益・認識」宇野重昭・唐燕霞編『転機に立つ日中関係とアメリカ』国際書院、2008年、129-160頁。

### (2) 論文

- ・ 「北東アジアの地域安全保障における非国家アクターの役割——日露間の領土問題との関わり」『北東アジア研究』（2012年3月刊行予定）。
- ・ 「書評論文 米軍駐留をめぐる政治と正統性」『北東アジア研究』2011年3月、81-87頁。
- ・ “When Do Territorial Disputes Become Indivisible? Domestic Sources of Japanese Territorial Policy After the Cold War,” a paper presented at the International Studies Association’s 49<sup>th</sup> Annual Convention, San Francisco, California, USA, March 26, 2008.
- ・ “Cultivating Support for Hegemony through Multilateralism: The Sino-American-Japanese Relations and Asian Security,” a paper presented at the 20th World Congress of International Political Science Association, Fukuoka, Japan, July 12, 2006.
- ・ “Memorizing War in Diplomacy: A Case of Japanese Foreign Policy and Asia,” a paper presented at the First Global International Studies Conference of World International Studies Committee, Bilgi University, Istanbul, Turkey, August 26, 2005.
- ・ “Managing Hegemony in Asia: Sino-American-Japanese Relations and Asian Security,” a paper presented at the Annual Meeting of International Studies Association, Montreal, Quebec, Canada, March 18, 2004.
- ・ “Beyond A Dichotomy between Bilateralism and Multilateralism: The Canada-Japan-US Security Dynamics in Asia in the Post-Cold War Era,” a paper presented at the Conference on Perspectives and Prospects on Canadian-Japanese Relations, Carleton University, Ottawa, Canada, September 22, 2002.

### 3. 学生に対するメッセージ

大学院講義（国際関係論）では、現代の国際関係論・国際政治学の理論的研究を取り上げて、理論間の論争や基礎的な方法論に関する論争について学びます。演習・研究指導では、学生自身が主体的に選択した研究テーマの現代的な意義、理論的・実証的貢献、学術領域の研究史の中で占める位置などについて、自覚的に議論できることを目標にしてもらいたいと思います。